第２回　三川中学校学校運営協議会　議事録

日時：令和５年１０月２３日（月）
１４：１５～１６：３０
場所：三川中学校図書室

◇　授業参観　１４：１５～１４：４５
合唱コンクールに向けた各学級の取り組みを参観しました。

◇　学校運営状況の説明（橘　正敏　校長）

○「学びと成長、そして笑顔のあふれる学校」ということで、「学び」「成長」「笑顔」の３つをキーワードにして取り組んでいる。

○教職員関係については６月にお知らせしていたが、新たに８月からALTにアンナ先生が赴任、特別支援員（不登校生徒対応）として９月から安食先生が加わっている。

○県費職員２３名をはじめ、町委嘱職員も多く、手厚い支援での運営が行われている。

○昨年度まで２年間、国の指定を受けて「魅力ある学校づくり」に町として取り組んできたが、生徒の声をもとにしたよい取り組みとして今年度も継続したアンケートの実施を行っている。

○「学校が楽しい」９３．８％、「みんなで何かをするのは楽しい」９７．２％、「授業に主体的に取り組んでいる」８８．７％、「授業がよくわかる」８９．８％と良好な結果がみられる。職員の中には、「授業がよくわかる」の数値をもっと上げたいと授業研究に取り組んでいる姿勢が、結果の数値にも現れているのではないかと感じている。

○先日、県教育庁の視察があり、「魅力ある学校づくり」の事業を通して何が変わりましたかという質問を受けました。それに対し、生徒の数値をみながら、一人ひとりの生徒について話題にしながら笑顔で意見交換ができる職員間の雰囲気が事業の成果と応えた。

○三川の子どもたちの課題であった「自尊感情」についてのアンケート項目では、「自分によいところがある」７４％、「友だちは、あなたのよいところを認めてくれる」９５．５％と徐々に数値が高くなっていることは喜ぶべき事である。昨年度までは、「先生があなたのよいところを認めてくれる」だったが、小学校とともに「友だちが…」へ変更している。

○全国学力・学習状況調査の結果からすると、国語・数学・英語の３教科とも全国や県の平均値を上回っている。数学においては、上位と下位の数値幅を少なくすることが今後の課題であり、英語は山形県における数値が全国より低い点が課題であり、三川中が上回っていることの分析を問われたが特段何をやっているわけではなく、英語検定等も町の補助をいただいているし交流事業も昨年までは行ってきた。小学校英語教員との研修なども行っていることなどトータルでの活動が理由になっている。

○全国学習状況調査での三川中生の強みと弱い点を上げると、県や全国より５ポイント以上高かった項目として、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」＋６．４、「将来の夢や目標を持っていますか」＋６．４、「困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」＋１２．６、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」＋１２．８、「普段の生活で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」＋５．２、「今、住んでいる地域の行事に参加しますか」＋７．２となっている。
学習にかかわる事項で、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできますか」＋７．９、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」＋９．６、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」＋９．２となっている。
逆に、５ポイント以上低かった項目として、「同じ時刻に寝ていますか」－７．７、「外国の人と友だちになったり、外国のことをもっと知ったりしてみたいと思いますか」－２１．１、「日本やあなたの住んでいる地域の事についてもっと知ってもらいたいと思いますか」－１０．６、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話しの組み立てなどを工夫して発表していましたか」－８．７、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか」－５．６、「分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」－７．４となった
魅力ある学校づくりとかかわる項目として、「自分には、よいところがあると思いますか」＋４．１、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」＋３．１、「学校に行くのは楽しいと思いますか」＋０．６．という結果であった。

○いじめの認知件数については、前期８件。１年生については、小学校時代からの関わりが関係する事案が見られる。相談対応済みで解消。重大事態となる案件はなかった。

○不登校（年間３０日以上）家庭との連携に重点をおきながら解消に向けて今後も努力したい。

○地域との協働について取り組むことを年度当初からかかげていた。持続可能なスポーツ・文化活動体制の確立については、三川町スポーツ文化振興協議会の協力により、すべての部が「子どもの地域クラブ」

へ移行加入を行った。
○ボランティア活動や地域活動への参加については、三川町中高生のボランティアサークル「来夢来人」に１年生１３名、２年生２１名、３年生７名が参加している。
○地域との協働活動については、１年生の地域探究活動、２年生の WAKUWAKU ワークと職場体験、３年生の保育実習と職業体験などを行ってきた。和装体験なども家庭科で行った。生徒は様々な体験を通し、前向きに学びを進めています。
○令和６年度実施の制服検討も制服のデザインが保護者や地域代表者、生徒会の力で決定した。
○運動会の応援合戦をユーチューブ配信している。(期間限定)

協議（ 質問・意見交換 ）
学校運営状況について
・生徒の声アンケートにかかわって、令和４年末の結果と令和５年前期の数値を比べると低くなっているが、それについては、年度末になると成熟度が高くなるのか、学校側としてはどうとらえているのか。
→年度始めの数値は低くなる。見積数値としてとらえている。理想としては数値が上がっていけばよいのだろうが、学年が変わるものであるから年度始めの数値は低くなっている。
・前年度の同じ時期による数値の変化の方が三川中学校としての比較にもなり分かりやすい。
・全国学力学習状況調査の結果から、「次の学習につなげていくこと」が弱いという点が気になる。授業が分かるという数値も高いので、分からなかった点への力点はどうか。
→教え過ぎてしまえば、自分で考えることの力を伸ばすことが弱くなる。自主的に取り組むことをメインにすると基礎基本が弱くなることがある。この数値を分析しながら、生徒中心の学習にしていければと考えている。
・授業がしっかり行われているから、学習結果が高いし、ついていける生徒が多いのだと思うが、「ふり返り」という点ではどうかと思う。
・三川中生で、塾に行っているとか、習い事に行っているなどの調査はやっているのか。
→調査としては行っていない。高校入試などについても、最近は出願を WEB で行なったりするなど変化してきている。生徒総会で、SNS の使用についての話題となり、生徒会が提案した１０時以降の利用について（メールや LINE などの送受信をしない）修正案決議があり１１時以降となった。もしかするとスポーツや習い事対応なのかもしれない。
・上位層の生徒が授業だけで理解しているのか知りたい。また、中間層をよりコンパクトにできたらよいと思うがその方策について知りたい。
→昨年度から、テスト期間に先生を活用する取り組み（教科担任を問わないで聞きたい先生に質問）を行ったりもしている。授業中は真面目に聞き入る。しかし、家に帰って復習しているかについては疑問。ワークの提出なども、期限は定めているが遅れ傾向にある。以前のように「居残り」も風潮的に問題視され自主性が重んじられ教師も悩めるところである。テスト前は聞きに来る生徒もいるが、普段の授業後に聞きに来る生徒の姿は少ない。
・今の子どもたちの中に、いろいろな年代の人と関わろうということはないのだろうか。
→「自分がよければそれでいい」という感覚が強いように思う。人と競い合うことも望まない。「自分は頑張ったからいい」というような感じに取れる。
・自分自身への評価が非常に甘いように感じる。先日、保健委員会に参加する機会があり、中学生の目の疾患が増加し、睡眠時間が減り、朝、自分で起きられない子どもが増えている。スマートフォンの利用に原因が起因しているように思える。自主性の大切さもわかるが、中学生はまだ親や家族などの見守りの必要な年代と思う。自主性に任せているとその反動が大きい。
・学ぶことが、なぜそうなるのかより結論が早くほしい。答えが早くほしい傾向にあるのではないか。そのため、記述式の問題に記載しない生徒もいる。
→本校の教員の中には、誰かが「こうだと思います」と答えてもそれだけで終わらない。「違う考えをしている人は」と振ることで、記述式問題への対応ができていくのではないか。１年生などには、まだ間違うことを怖いと考えている生徒も多いように感じられる。
・あまりにも断言しすぎている。「こんな考え方はおかしい」という風潮が生じてしまっているのではないだろうか。みんなと同じでなければならないという考えが先に立ってしまっていて、なかなか自分の考えを出せないことになっているのではないか。
・中高一貫校の開校により、小学校からその対応などが生じてくると思うが、その情報などはあるのか。
→これから調査書の依頼が小学校に要望になるので、その時点で情報が入ってくると思う。三川では交通の便等もありどうだろうか？
・小学校１年生で「中学校どうする」などの話題をしている子もいる。塾に通い「模試が…」という声もある。中高一貫となると、大学受験が心配という声もある。
→一貫校の結果については小学校に行かない。教育委員会には、１月末以降に市町村立の中学校に入学し

ない旨の手続きがあり、そこで、次年度の入学生がわかる。制服の申込もその結果後となる。

熟議テーマに関わって　「地域と中学校とのつながりの構築」

・中学生の美術作品、１年生の野菜や果物の作品を産直に展示することもいいのでは。マイデルにあるものをつくるなども効果がありそうだ。作品への意欲もますのではないか。
・美術作品の和菓子販売については、観光協会から移行した経緯や今後どうなっていくのかについて知りたい。
→授業での作品が和菓子として販売されることは、子どもの意欲につながることであり継続していきたい事業と考えているが、今年度、急に担当するところがあいまいになりコーディネーターが関わっている。販売は、秋まつり会場で来夢来人が行う。
・コロナ禍で地域とのつながりを再構築しなければならなくなっている。学校としても一度離れてしまった距離を縮めるための苦心も大きい。
・学校と地域を結ぶよい事業はたくさんあるが、人材や経費の予算化がない。
→地域と学校とつながる事業の広報化も大事である。
・その時の盛り上がりだけで終わるのか、今後にどう生かすかが大事であり、今年度感じたことは、美術作品として子どもが手を抜かなくなったのは、実際に和菓子になることへの意欲として感じた。
・体育祭が延期になった。体育祭が先に行われていた時は、組としてまとまることがどのようなことかが体験として新人戦にも生きていた。今年度、新人戦が先になったことで、チームのまとまりなどに苦労した。
→コロナ禍で中止になっていた職場体験が４年ぶりに実施となった。職場体験の実施にあたってはコーディネーターにお世話になった。三川町内ですべての生徒が体験できたことは素晴らしいと感じた。保育体験も同じである。
→地域活性化もそうだが、地域との関わりをもてる事業を中学生が企画できないか。企画する楽しさを感じさせたい。大人の企画にのるだけではなく、子どもたちが自ら参画させられたらより意欲が増す。
・地域事業への中学生の参画もよい。
→中学生が企画したことに、大人が参加するようなことがあっても地域とのつながりの構築になる。中学生が積極的に地域と関われるような取り組みができたらよい。
・南陽市のような取り組み（予算化があり）子どもたちが考えるのも有効である。